相川小学校 学校だより

令和６年度第５号

ホームページをご覧ください

甲府市立相川小学校

　令和６年４月１８日に，令和６年度全国学力・学習状況調査が行われました。６年生が調査の対象になります。

　全国学力・学習状況調査は，学力の順位をつけるものではなく，児童・生徒の学習の様子を検証し，教育活動を改善していくことを目的としています。本校６年生の調査結果は，統計的な計算を参考にすると，全国・山梨県の平均値に「差はないに等しい」という判断ができます。*1

　調査の結果を詳細に分析し，本校の傾向を明らかにしました。今後の学校教育に反映して参ります。

　地域や保護者の皆様に，結果の分析を根拠とした本校の傾向を報告いたします。

＊1　得られたデータから効果量（Cohenのd ）を求めて，２標本の平均値がどれだけ離れているかを計算しました。全国と本校，全国と山梨県，山梨県と本校の平均値についていずれも効果量は0.2以下であり，それぞれの平均値は差がないに等しいと判断することができます。（全国学力・学習状況調査「平均ゾーンシステム」（https://ds-efa.info/data_analysis/）を参考にしました。）

令和6年度全国学力・学習状況調査の集計から

本校の「学力」の状況

　まず，本校の「学力」の状況について，教科別に報告します。一つ一つの結果を精査して，他の設問に比べて誤答が多かった設問について傾向と対策をまとめました。

国語科の結果から

　国語科の結果を分析すると，３つの課題が浮かび上がってきました。

　１つ目は，「示された条件を満たして，文章で表現する」ことです。児童の解答文を分析してみると，要旨はまちがえてはいないのですが，示された条件の１つである「資料の中の言葉や文を取り上げて書くこと」を満たしていない解答文が多く見られました。普段の学習の中でも，条件に留意し，自分の考えを表現する場面を設定し，必要な能力を養っていきます。

　２つ目は，「主語と述語の関係を正確に捉える」ことです。ある述語に対する主語を回答する設問がありました。主語が述語からかなり離れた場所にある文章でした。主語と述語の関係を正しく理解していないと，正確に文意をとらえることができません。授業において，文章を分析する場面で，主語と述語の関係をみんなで確認することを意図的に行っていきます。

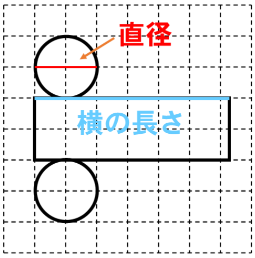
　３つ目は漢字の学習の定着です。本年度より，特に６年生において，朝の会の前に１５分授業を設定しています。１５分授業は週に２回行われます。１５分の中で，国語の漢字や，算数の計算など技能を高める学習に集中して取り組んでいます。令和６年度全国学力・学習状況調査の結果は，令和５年度の状況を調査したものでした。令和６年度より朝の１５分学習において集中して漢字の学習に取り組むことにより，漢字の学習の定着にどのような変化が見られるかを客観的な根拠により分析していきます。

算数科の結果から

　算数科では，３つの設問で誤答が多く見られました。

　１つ目は，わり算です。小数で割るときに，わり算の答えが大きくなるか，小さくなるかを解答する設問です。具体的には，同じ量のお米を，一人に７kgずつ配る場合と，0.7kgずつ配る場合とではどちらの方が多くの人に配れるかという問題でした。わり算の問題を機械的に計算する学習だけではなく，具体物や具体的なシチュエーションを提示する中で実感を伴って解決していく場面を設定し，わり算の意味を理解させていきます。

　２つ目は，円柱の展開図に関する設問です。正しい展開図を選択する問題でした。側面の



横の長さは，底面の直径の約３倍になることは多くの児童が理解しているようなのですが，３倍はどのくらいの長さなのかを判断する量感が定着していないようです。実際に作ったり操作したり等の数学的活動を積極的に取り入れ，長さや重さ等の量感を体にしみこませていきます。

３つ目は，グラフや表から情報を読み取って必要なことを答える設問です。国際学習到達度調査を実施しているOECDは，国際的に共通する現代人の主要な能力としてキー・コンピテンシーを定義しています。そこに示される能力の１つに「言語、シンボル、テキストを相互作用的に用いる」があります。これは，本校だけでなく，日本の小学生が苦手とする能力の１つです。本校の児童の実態を見ると，グラフや表の読み取り方は理解しているようです。しかし，グラフや表から読み取った情報を相互作用的に用いて，必要な答えを導き出すところでつまずいてしまいます。グラフや表は，算数の学習だけでなく，社会科や理科，国語，総合的な学習にも頻繁に登場します。日常生活においてもグラフや表を活用する場面はたくさんあります。グラフや表から情報を読み取るだけではなく，読み取った情報を組み合わせて問題を解決していくような経験を積み重ねていきます。

生活習慣や学習環境等の状況

「生活習慣や学習環境等に関する調査」の結果として，全国と本校の平均値が報告されています。統計的な処理で判断し，全国と比較して差が見られる項目について報告します。*2

家庭での学習・生活習慣

「朝食を毎日食べている」と言う設問に対して，「あまりしていない」「全くしていない」という回答は０でしたが，「している」という回答が全国とくらべて少ない傾向が見られました。また毎日，同じくらいの時刻に起きている」という設問に対しては，「している」という回答が全国とくらべて少ない傾向が見られました。朝，決まった時間に起きられないので朝食が食べられないということもあるのかもしれません。十分な睡眠と朝食の摂取は活力ある一日の源となるでしょう。朝食を美味しくいただけるような規則正しい生活を家庭と学校が連携して実現していけるようご協力をお願いします。

学校での学習・生活習慣

３つの設問において，全校と本校の平均値に有意な差が見られました。

１つ目は，「人が困っているときは、進んで助けていますか」という設問です。「当てはまる」という回答が全国とくらべて多い傾向が見られました。相川小学校では，学校目標「つよく　かしこく　うつくしく」の「うつくしく」を実現するために，「思いやりがあり、自他にやさしく心豊かな子ども」の育成に取り組んでいます。今後も心の「うつくしい」を実現すべく教育活動に取り組んでいきます。

２つ目は，「学校に行くのは楽しいと思う」という設問です。「当てはまる」と言う回答が全国とくらべて少ない傾向が見られました。本校では，学期に２回の「友達関係アンケート」，年に２回の「Q-U楽しい学校生活を送るためのアンケート」を実施し，児童の実態の把握に努めています。また，６年生児童にはスクールカウンセラーによるカウンセリングも実施しています。調査データだけでなく，学級担任を中心に，全職員で児童に寄り添い，児童の様子をつぶさに観察し，楽しい学校生活の実現に努力していきます。

３つ目は，「授業でＰＣなどのＩＣＴ機器をどの程度使用したか」という設問です。「ほぼ毎日」という回答が全国とくらべて多い傾向が見られました。別の設問では，「ＩＣＴ機器により自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」に対し「当てはまる」の回答が多く見られました。本校では，令和５年度より，児童が自分の個性を尊重し，自分で学習を調整しながら取り組む複線型の授業や自由進度学習に取り組んでいます。そのような学習形態においてＩＣＴ機器を活用しています。今後も更なる活用を目指していきます。

*2　２つの比率の差を検定するために，カイ二乗検定の計算を行いました。検定には，keisan（https://keisan.casio.jp/）を利用しました。